

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 30 年 2 月 15 日 13 時 55 分 ~ 15 時 15 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 55 問で解答時間は正味 1 時間 20 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例 1)、(例 2)及び(例 3)の問題では 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)、(例 2)では 1 つ、(例 3)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。

なお、(例 1)、(例 2)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3)の質問には、1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
		↓		
101	①	②	③	●

答案用紙②の場合、

101		101
①		①
②		②
③	→	③
④		●

(例2)

102 助産師の離職時の届出が定められているのはどれか。

1. 医療法
2. 学校教育法
3. 母子保健法
4. 保健師助産師看護師法
5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

正解は「5」であるから答案用紙の⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
102	①	②	③	④	⑤	102	102	①	①	
			↓					②	②	
102	①	②	③	④	●			③	→ ③	
								④	④	
								⑤	●	

(例3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
103	①	②	③	④	⑤	103	103	①	●	
			↓					②	②	
103	●	②	③	④	●			③	→ ③	
								④	④	
								⑤	●	

(2) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：① ② %

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(●)
104	(●)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)

答案用紙②の場合、

	104
①	②
(0)	(●)
(1)	(1)
(2)	(2)
(3)	(3)
(4)	(4)
(5)	(5)
(6)	(6)
(7)	(7)
(8)	(8)
(●)	(9)

1 国際連合〈UN〉で採択された持続可能な開発目標〈Sustainable Development Goals : SDGs〉で正しいのはどれか。

1. 2000年に採択された。
2. 主要な8つの目標が設定されている。
3. ジェンダーの平等の達成は目標の1つである。
4. 安全な母性イニシアティブ〈Safe Motherhood Initiative〉の評価を基盤に策定された。

2 染色体が正常でありNT〈nuchal translucency〉異常値が観察された胎児が最も有しやすい異常はどれか。

1. 横隔膜ヘルニア
2. 腎低形成
3. 心奇形
4. 水頭症

3 遺伝性疾患を有する児が出生した。両親の検査によって、母親のみが原因の遺伝子をもっていることが確認された。今後この母親が出産する子どもには、性別によらず半分の確率で同じ疾患が生じる可能性がある。

この疾患の遺伝形式はどれか。

1. 細胞質遺伝
2. X連鎖劣性遺伝
3. 常染色体優性遺伝
4. 常染色体劣性遺伝

4 新生児について正しいのはどれか。

1. 飢餓に耐える能力が高い。
2. 生理的な反芻^{はんすう}を起こしやすい。
3. 中鎖脂肪の吸収にはミセル形成が必要である。
4. 母乳の凝乳塊(ミルクカード)は消化吸収されにくい。

5 Aさん(25歳、1回経産婦)。妊娠13週。妊娠初期の検査でサイトメガロウイルスIgG抗体が陰性であった。

Aさんに対するサイトメガロウイルスの母子感染を予防するための指導で適切なものはどれか。

1. ワクチンの接種
2. ネコの飼育の禁止
3. ガーデニング後の手洗い
4. 上の子のおむつ交換後の手洗い

6 Aさん(39歳、1回経産婦)は、体重3,850gの児を経膣分娩した。分娩第3期までの出血量は羊水を含めて650mL。胎盤娩出時のバイタルサインは、脈拍80/分、血圧125/75mmHg。Aさんは分娩2時間後に気分不快を感じ、助産師を呼んだ。外陰部に当てたパッドを超えて血液があふれベッドのシーツに広く染みており、床にもこぼれていた。パッド内の血液量は120g。脈拍130/分、血圧72/38mmHgで、不穏な状態である。

分娩から分娩2時間後までの出血の総量として予想される値はどれか。

1. 770 mL
2. 1,000 mL
3. 1,500 mL
4. 2,000 mL 以上

7 25歳の初産婦。妊娠40週1日、分娩所要時間20時間30分で体重3,650gの女児を正常分娩した。分娩2時間後の観察時に「本当に痛くて大きな声で叫んでしまいました。二度とお産はしたくないです」と硬い表情で言った。

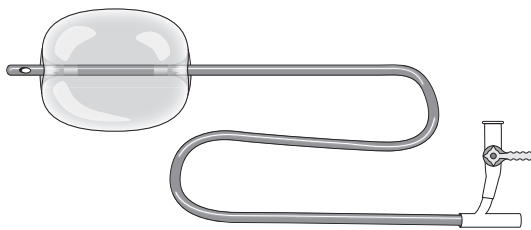
助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 「次のお産は今回と同じにはなりませんよ」
2. 「赤ちゃんの顔を見たら気持ちが変わりますよ」
3. 「痛かったですよね。でも上手なお産でしたよ」
4. 「みんな大きな声を出すので気にしないでください」

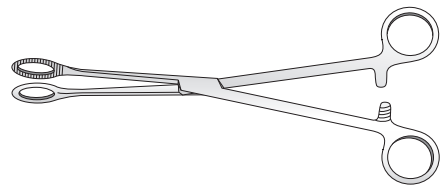
8 低置胎盤の妊婦が経膣分娩した。胎盤娩出直後に子宮収縮が不良となり、約800mLの出血がみられた。子宮双手圧迫法を行いつつ子宮収縮薬の点滴静脈内注射を開始し、子宮体部の収縮は良くなってきたが、その後も子宮腔内からの流血が続いている。経腹超音波検査の所見では子宮腔内に胎盤の遺残はなく、胎盤剝離面からの出血であると推定された。

止血処置に用いる器材はどれか。

1.



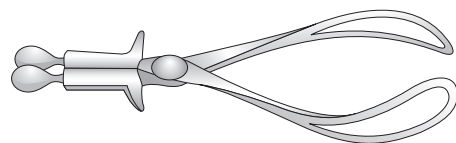
2.



3.



4.



9 日本における平成 27 年(2015 年)の乳児死亡について正しいのはどれか。

1. 死因の第 1 位は乳幼児突然死症候群〈SIDS〉である。
2. 乳児死亡数が 2,000 人を下回った。
3. 死亡率は世界第 2 位の低率である。
4. 早期新生児死亡は含まれない。

10 出産育児一時金について正しいのはどれか。

1. 支給額は標準報酬日額の 3 分の 2 である。
2. 被保険者本人が出産したときのみ支給対象となる。
3. 妊娠 85 日以後の出産であれば死産でも支給される。
4. 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律〈男女雇用機会均等法〉に定められている。

11 少子化社会対策基本法に定められているのはどれか。

1. 要保護児童の里親への委託
2. 不妊治療に係る情報の提供
3. 生後 1 年未満の育児時間の確保
4. 乳幼児に対する栄養摂取の援助

12 34歳の初妊婦。妊娠20週2日、単胎である。学童期に気管支喘息と診断され、最終発作は1年前である。現在は自宅近くの病院で妊婦健康診査を受けており、妊娠経過は正常である。日常生活に問題はない。自宅から車で4時間のところにある実家に里帰りして出産することを希望している。

妊婦健康診査の際に、里帰り分娩について相談を受けた助産師が勧める内容で適切なものはどれか。

1. 妊娠37週ころに里帰りする。
2. 実家近くの助産所で分娩する。
3. 車で移動するときは途中で休憩をとる。
4. 出産希望の医療機関における分娩受け入れの可否を妊娠後期に確認する。

13 妊婦における食事摂取基準を定める法律はどれか。

1. 健康増進法
2. 健康保険法
3. 地域保健法
4. 母子保健法
5. 母体保護法

14 子宮頸癌について正しいのはどれか。

1. 組織型は腺癌が多い。
2. ワクチンの接種によって治療できる。
3. 若年層での発生数の増加が問題となっている。
4. ヒトパピローマウイルス(HPV)11型の感染によって発生する。
5. 平成27年(2015年)の日本における年間の死亡者数は乳癌より多い。

15 母体血清マーカー検査について正しいのはどれか。

1. 妊娠9週から行われる。
2. 胎児の性別の判定ができる。
3. 13トリソミーの確定診断ができる。
4. 胎児神経管閉鎖障害の確率が推定できる。
5. 単胎より双胎の方が正確性の高い結果が得られる。

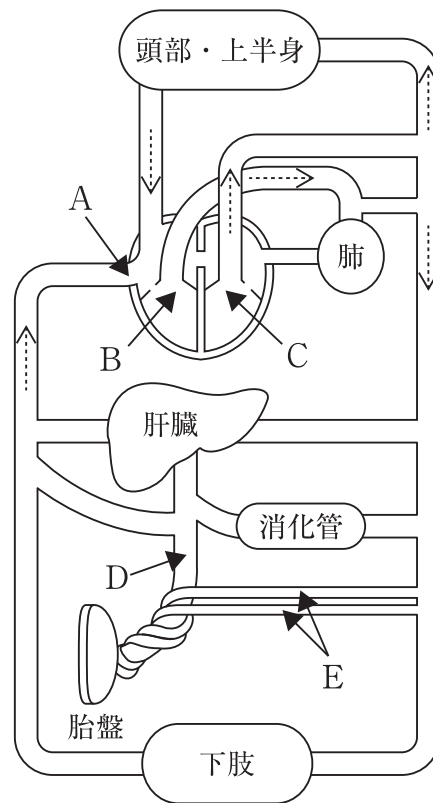
16 妊娠による身体の変化で正しいのはどれか。

1. 膣壁が藍紫色となる。
2. 子宮頸部の軟化は子宮体部より早く始まる。
3. Piskacek〈ピスカチェック〉徴候は妊娠5か月に顕著となる。
4. 乳輪に形成される Montgomery〈モントゴメリー〉腺は第2次乳輪である。
5. 子宮の着床部位が膨隆して触れることを Hegar〈ヘガール〉第1徴候という。

17 胎児期に低栄養であった場合に、成人期以降にみられやすいのはどれか。

1. アトピー性皮膚炎
2. 気管支喘息
3. 2型糖尿病
4. 肝硬変
5. 膵臓癌

18 胎児の血液循環を図に示す。



血液中の酸素分圧が2番目に高いのはどれか。

1. A
2. B
3. C
4. D
5. E

19 臍帯について正しいのはどれか。

1. 臍帯偽結節は血行障害を伴う。
2. 臍動脈の直径は臍静脈の直径より大きい。
3. 臍帯の胎盤付着部位は中央付着が最も多い。
4. 過短臍帯は分娩時に胎児機能不全を起こしやすい。
5. 臍帯の Wharton〈ワルトン〉膠様質は卵膜で覆われている。

20 新生児の成熟度を New Ballard 法で評価する際の所見でスコアが高いのはどれか。

1. 脚が伸展している。
2. 皮膚に亀裂を認める。
3. 陰核が突出している。
4. 膝窩角が 180 度である。
5. 手の前屈角が 60 度である。

21 A さん(18 歳、高校生)。思春期外来を受診した。A さんは「月経周期が一定でないので心配。25 日から 30 日と、早く来たり普通に来たりで、7 日間ぐらい続きます。体重が 62 kg あることが気になって、3 年くらい前からダイエットしました。今は身長 155 cm で、体重は 57 kg です。基礎体温をつけたら、高温と低温はありました」と言う。

この相談内容についての助産師の判断で適切なのはどれか。

1. 希発月経である。
2. 過長月経である。
3. 無排卵性月経である。
4. 月経周期は正常である。
5. 体重減少性無月経である。

22 妊婦健康診査における正常経過の妊婦に対する間欠的胎児心拍数聴取について、正しいのはどれか。

1. 5 秒ごとの心拍数を計測する。
2. 膀胱に尿を貯留させた状態で聴取する。
3. 腹部緊満を訴える場合は 1 分間聴取する。
4. 妊娠初期は臍部よりやや上方で聴取する。
5. 臍帯雑音と胎児心音は同数で聴取できる。

23 28歳の初妊婦。妊娠31週6日に妊婦健康診査を受診した。子宮底長25cm。経腹超音波検査で、児の推定体重は週数相当、AFIは2.8であった。

このような所見がみられる胎児の疾患はどれか。

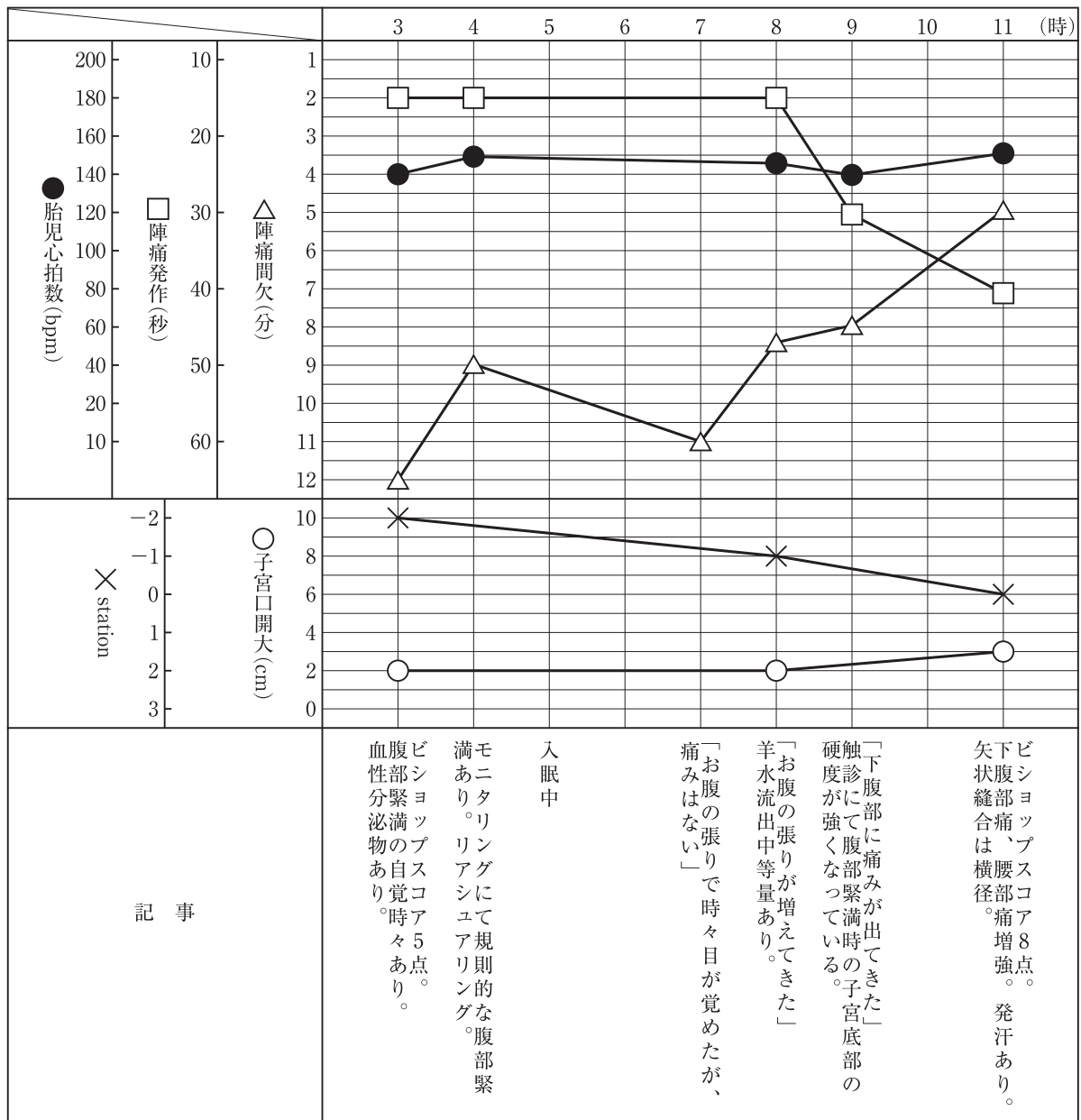
1. 筋緊張性ジストロフィー
2. 横隔膜ヘルニア
3. 十二指腸閉鎖症
4. 両側腎低形成
5. 鎖肛

24 Aさん(34歳、1回経産婦)。妊娠22週0日。妊婦健康診査を受けている病院に「3歳の長女が通園している幼稚園で、3日前に伝染性紅斑を発症した児がいた」と相談に来たため、血清抗体価検査を行った。検査結果は、PB19-IgM抗体(-)、PB19-IgG抗体(+)であった。

Aさんに対する説明で正しいのはどれか。

1. 「このまま様子を見て問題ありません」
2. 「抗ウイルス薬の内服で感染が予防できます」
3. 「2週ごとに胎児の超音波検査が必要です」
4. 「1か月後に血清抗体価の再検査が必要です」
5. 「帝王切開術による分娩になります」

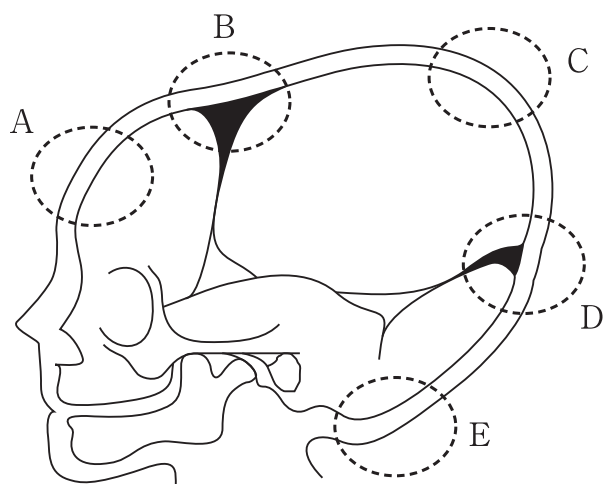
25 30歳の初産婦。妊娠39週0日。午前2時に破水で目が覚め、1時間後に入院した。入院後のパルトグラムを図に示す。



この産婦の分娩開始時間はどれか。

1. 2時
2. 3時
3. 4時
4. 8時
5. 9時

26 前方後頭位分娩で出生した直後の児頭を図に示す。



第3回旋が起こる直前に母体の恥骨弓下を滑脱した点はどれか。

1. A
2. B
3. C
4. D
5. E

27 Aさん(30歳、初産婦)。妊娠39週0日。微弱陣痛のためオキシトシンを使用し、体重3,500gの児を経膣分娩した。分娩所要時間18時間30分。分娩時出血量700mL。分娩2時間後、オキシトシン点滴静脈内注射は継続中で、子宮底の高さは臍高、硬度はやや軟。最終排尿は、分娩1時間前であった。体温37.5℃、脈拍80/分、血圧130/70mmHg。分娩1時間後の出血量は30mL、2時間後の出血量は60mLであった。「陣痛が始まってから食事も摂れず、眠れなかった。赤ちゃんの泣き声が気になって休めない。体が熱く、汗をかいた」と言う。

このときの対応で最も優先されるのはどれか。

1. 排尿を促す。
2. 食事摂取を促す。
3. 授乳介助を行う。
4. 全身清拭を行う。
5. 腋窩の冷罨法を行う。

28 新生児の体温について正しいのはどれか。

1. 褐色脂肪組織で熱産生を行う。
2. 成人に比べ蒸散による熱喪失が少ない。
3. 環境温度が高いと酸素消費量が少なくなる。
4. 低体温は代謝性アルカローシスの原因となる。
5. 開放式保育器は対流による熱喪失が予防できる。

29 在胎 37 週 5 日、体重 2,700 g で出生した児。出生後のバイタルサインに異常はなかったが、授乳時に口唇周囲に軽度のチアノーゼが認められた。本日、日齢 3 で体重 2,565 g。体温 37.5℃、呼吸数 53/分、心拍数 145/分。排尿 8 回/日、排便 2 回/日で移行便である。児の栄養は自律授乳で 7 回/日、授乳時間 20 分/回。母親の乳房は軽度緊満、乳汁分泌は良好である。

授乳に関する対応で適切なのはどれか。

1. 授乳回数を増やす。
2. 哺乳瓶で哺乳する。
3. 授乳間隔を 3 時間おきにする。
4. 授乳中の児の呼吸状態を確認する。
5. 乳輪部が均等に見えるように吸着の介助をする。

30 新生児の黄疸について正しいのはどれか。

1. 黄疸は四肢、体幹、頭頸部の順に進行していく。
2. 頭蓋内出血は核黄疸の発症のリスク因子である。
3. 胆道閉鎖症では間接ビリルビン優位の黄疸を呈する。
4. 遷延性黄疸とは、生後 4 週以上持続する黄疸のことである。
5. 母親の血液型が AB 型の場合は溶血性黄疸の発症のリスクが高い。

31 胎児発育不全(FGR)の妊婦が正期産で正常分娩になった。

妊娠および分娩の管理について、保険診療の対象となるのはどれか。

1. 分娩料
2. 室料差額
3. 新生児管理保育料
4. 妊婦健康診査の費用
5. ノンストレステスト(NST)

32 胎位、胎勢および胎向について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 骨盤位は縦位である。
2. 後方後頭位は経膈分娩が不可能である。
3. 胎位や胎勢の異常は微弱陣痛の原因となる。
4. 胎位や胎勢の異常によって臍帯巻絡が生じる。
5. 縦位では児頭と母体との位置関係を胎向という。

33 骨盤臓器脱の危険因子はどれか。2つ選べ。

1. 便秘
2. 喫煙
3. るいそう
4. 子宮筋腫
5. 帝王切開術の既往

34 先天性心疾患のうち非チアノーゼ性心疾患はどれか。2つ選べ。

1. 動脈管開存症
2. 三尖弁閉鎖症
3. 心室中隔欠損症
4. 完全大血管転位症
5. 総肺静脈還流異常症

35 乳幼児突然死症候群(SIDS)の危険因子はどれか。2つ選べ。

1. 母乳栄養
2. 部屋の加湿
3. うつ伏せ寝
4. 養育者の喫煙
5. 硬めの寝具の使用

次の文を読み 36～38 の問いに答えよ。

A さん(34 歳、未妊婦)。3 か月前から、月経の数日前から月経中にかけて下腹部痛が強くなっていることを自覚し、近くの産婦人科を受診した。月経は規則的で量は正常。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 大学卒業後は銀行に就職し、職場で知り合った夫と半年前に結婚した。
結婚後も仕事を継続し、生活に充実感を感じている。

家族歴 : 母方の祖母が乳癌で死亡。母親は乳癌の手術歴がある。

身体所見 : 身長 160 cm、体重 55 kg。

検査所見 : 内診にて骨盤内に強い癒着や圧痛はみられない。経膈超音波検査で左卵巣内に 2 cm 大の子宮内膜症性嚢胞が確認された。

36 A さんは医師から月経痛の緩和のため痛み止めの処方を受けた。医師の診察後に、将来の妊娠の計画について助産師が相談を受けた。A さんも夫も、子どもが 2 人欲しいと考えているという。

助産師が行う A さんへの説明で正しいのはどれか。

1. 「子宮内膜症が治らないと妊娠はできません」
2. 「早めの妊娠を目指すことが望ましいです」
3. 「体重を減らすと妊娠しやすいです」
4. 「不妊治療を受ける必要があります」
5. 「妊娠のために仕事はやめましょう」

37 初診から3か月後。Aさんは卵巣子宮内膜症の変化を確認するため、再度受診し、受診前の問診で乳癌に関して助産師に相談した。Aさんは「家族に乳癌の発症が多いため自分も発症するのではないかと心配だ」と助産師に話した。

Aさんの乳癌発症のリスクを評価する上で、助産師がAさんから確認すべき情報で正しいのはどれか。

1. 母親の体重
2. 祖母の食生活
3. Aさんの経血量
4. 祖母と母親の乳癌の発症年齢
5. 祖母と母親の子宮内膜症の既往の有無

38 Aさんは「今後の妊娠を見据えた上で、乳癌の検査について知りたい」と言う。乳癌の検査に関するAさんへの説明で適切なのはどれか。

1. 「授乳中は癌の発見が難しくなります」
2. 「妊娠中は妊娠後期に検査を受けましょう」
3. 「超音波検査では悪性の確定診断ができます」
4. 「Aさんの年齢では超音波検査の有効性は低くなります」

次の文を読み 39～41 の問いに答えよ。

A さん(30 歳、1 回経産婦)。妊娠 40 週 5 日。これまでの妊娠経過に異常はなかったが、妊娠 37 週の妊婦健康診査で B 群溶血性レンサ球菌(GBS)陽性であった。午後 10 時に A さんは電話で「午後 4 時くらいから不規則に子宮収縮がありました。午後 7 時から 15 分間隔になり、今も変わりません。生理痛のような痛みがあります。昨日の妊婦健康診査で、子宮の出口は 2 cm 開いていると言われました。昨日から褐色のおりものがありますが、破水はしていません。いきみたい感じはありません」と落ち着いて話した。

39 A さんは「病院までは 30 分くらいで行けます。上の子は同居の実母にみてもらうことができます。どうしたらよいでしょうか」と話した。

電話での A さんへの説明で適切なのはどれか。

1. すぐに来院してもらう。
2. 破水後にもう一度電話してもらう。
3. 明日の午前中に外来を受診してもらう。
4. 陣痛が 10 分間隔になったら来院してもらう。

40 その後 Aさんは入院し、陣痛発来5時間後に陣痛間欠5分、陣痛発作40秒となった。内診所見は、子宮口7cm開大、展退度80%、Station±0、子宮頸管の硬度は軟、子宮口の位置は前方であった。矢状縫合は斜径、小泉門は5時方向、卵膜はなく、薄いピンク色の羊水の流出を確認した。胎児心拍数陣痛図の波形はレベル2。腰部痛があるため左側臥位で過ごしており、肛門が押される感じがすると訴えている。

このときの対応で適切なのはどれか。

1. 努責を促す。
2. 入浴するよう促す。
3. トイレに行くことを勧める。
4. 四つ這いの姿勢になるよう促す。
5. 連続的胎児心拍数モニタリングを3時間後から実施する。

41 Aさんは、分娩開始後9時間で正常分娩した。分娩後、左正中側切開への縫合術が行われた。分娩時出血量は440mLで、子宮収縮は良好であった。分娩5時間後、Aさんは尿意を感じ、トイレまで歩行したが尿は出なかった。体温36.8℃、脈拍78/分、血圧138/74mmHg。子宮底の高さは臍高で硬く触れ、流血はない。会陰切開縫合部の腫脹と発赤はない。触診で膀胱充満がみられた。

Aさんのアセスメントで適切なのはどれか。

1. 脱水を起こしている。
2. 尿路系の炎症を起こしている。
3. 子宮復古不全を起こしている。
4. 膀胱平滑筋の緊張が亢進している。
5. 尿道括約筋が一過性の攣縮をきたしている。

次の文を読み 42～44 の問いに答えよ。

A ちゃん(生後 4 か月 0 日、男児)。在胎 37 週、身長 48 cm、体重 2,500 g で出生した。A ちゃんは 4 か月児健康診査で身長 60 cm、体重 6,000 g であった。腹這いになると腕で身体を支え、頭を持ち上げた。「がらがら」を両手で持ち、あやすと声を出して笑い、母親をまねてア－ア－と声を出した。首を右に向けると左右の手足を屈曲させた。

42 A ちゃんの成長・発達評価で正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. Kaup(カウプ)指数による評価は太り気味である。
2. 微細運動の発達遅滞が認められる。
3. 喃語の表出に遅滞が認められる。
4. 緊張性頸反射は消失している。
5. 定頸している。

43 2 か月後、母親が A ちゃんの体温を測ると 38.0℃であった。すぐにかかりつけ医を受診したところ、処方されず、自宅で様子を見ることになった。発熱以外に感冒様症状や嘔吐はなく、機嫌よく過ごしていた。受診後 3 日で解熱し、体幹に淡紅色の細かい発疹を認めた。

考えられる疾患はどれか。

1. 麻 疹
2. 突発性発疹
3. インフルエンザ
4. RS ウイルス感染症
5. A 群 β 溶血性レンサ球菌感染症

44 解熱後1週、Aちゃんの症状は軽快し、6か月児健康診査のためかかりつけ医を受診した。身長66 cm、体重7,200 g。母親は「母乳はよく飲んでいきます。夜間は2、3時間おきに授乳が必要です」と話し、母親はやや疲労した様子である。

このときの栄養指導で正しいのはどれか。

1. 人工乳の追加を勧める。
2. 断乳の準備をするよう勧める。
3. 離乳食を開始するよう勧める。
4. 夜間は泣いても授乳しないよう勧める。

次の文を読み 45～47 の問いに答えよ。

望まない妊娠の防止と対応を目的として、助産師 6 人で「妊娠に関する電話相談」事業を立ち上げた。週に 2 日、9 時から 17 時の間、電話相談を受けることになった。A さんは「妊娠に関する電話相談」に匿名で電話をかけた。「今、大学 2 年生。交際し始めた男性と 2 週前に避妊せずに性交渉をした。昨日から出血があり、下腹部痛がある。今朝、妊娠検査薬で調べたところ妊娠反応は陰性であったが、本当に妊娠していないか不安になった」と話した。

45 A さんの電話相談を受けた B 助産師の対応で適切なのはどれか。

1. A さんの連絡先を聞く。
2. B 助産師の名前を伝える。
3. 受診の必要性を判断する。
4. あらかじめ相談に要する時間を決めておく。

46 2 週後、A さんから再度電話があり、B 助産師が対応した。A さんは「月経が来て妊娠の不安はなくなった。彼との交際も続いている。今後はちゃんと避妊しよう」と彼とも話し合った。方法を教えて欲しい」と真剣に話した。A さんは経血量が多く、月経周期は不規則であった。

A さんに勧める方法で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 膣外射精
2. 周期的禁欲法
3. 低用量ピルの内服
4. コンドームの使用
5. 緊急避妊薬の内服

47 助産師が行う「妊娠に関する電話相談事業」を開始して1か月が経過した。電話相談を担当する助産師で、これまでの電話相談の各事例を評価するため話し合った。

Aさんの事例を評価する際に、最も重要な情報はどれか。

1. Aさんと彼の交際が継続したこと
2. Aさんの妊娠不安がなくなったこと
3. Aさんが2回目の電話をかけてきたこと
4. Aさんが自分から避妊方法を知ろうとしたこと

次の文を読み 48、49 の問いに答えよ。

A さん(25 歳、初妊婦)。図書館の受付で働いている。妊娠 18 週 2 日。身長 155 cm、非妊時体重 54 kg。妊娠 10 週ころからつわりが始まり体重が 3 kg 減少し、現在の体重は 51 kg である。妊婦健康診査で、血圧 100/60 mmHg。尿蛋白(－)、尿糖(－)。胎児の発育は良好で、羊水量は正常であった。

48 この時期の A さんが非妊時よりも追加すべきエネルギー必要量はどれか。

1. 0 kcal/日
2. 50 kcal/日
3. 250 kcal/日
4. 450 kcal/日

49 妊娠24週4日、妊婦健康診査のため来院した。体重63.5 kg。血圧138/78 mmHg。尿蛋白(-)、尿糖3+。下腿の浮腫(±)。経腹超音波検査で特に異常はなかった。1週後の再検査でも尿糖3+で、血液検査の結果、妊娠糖尿病と診断された。糖尿病の既往はない。「ショックです。つわりがおさまってから何でもおいしいので、つい食べ過ぎていたかもしれません。今後はなるべく食べないようにします」と話した。

このときの説明で正しいのはどれか。

1. 「帝王切開術の適応となります」
2. 「尿糖が陰性になれば心配ありません」
3. 「血糖コントロールは内服薬で行います」
4. 「赤ちゃんに問題が起こることはありません」
5. 「妊娠期に必要な栄養所要量を摂ることが重要です」

次の文を読み 50、51 の問いに答えよ。

A さん(25 歳、会社員)。両親と妹の 4 人家族。A さんは、月経が遅れたため産婦人科外来を受診し、妊娠 8 週 0 日と診断された。パートナー(27 歳、会社員)とは 1 年後に結婚する予定であった。4 週後、妊婦健康診査のため受診した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 出勤は朝 7 時、帰宅は 21 時になる。昼食および夕食は外食が多い。

家族歴 : 母親は高血圧症で内服治療中。

身体所見 : 身長 154 cm、非妊時体重 55 kg。今回の体重は 54 kg。悪心が時々ある。

検査所見 : 血圧 120/76 mmHg。尿蛋白(-)、尿糖(-)。下腿の浮腫(-)。超音波検査にて胎児心拍を確認し、頭殿長〈CRL〉45 mm。

50 A さんは「パートナーと一緒に育てていこうと決めたけれど、まだ親になる実感がわからない。今は 2 人とも仕事が忙しく同居できないので、この先一緒に赤ちゃんのことを考えていけるか不安がある」と言う。

A さんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. 妊娠に伴う母体の変化を説明する。
2. 妊娠初期の食生活について説明する。
3. A さんに出産のビデオを観てもらう。
4. 他の妊婦と交流できるマタニティクラスの参加を勧める。
5. パートナーとともに妊婦健康診査に来院するよう勧める。

51 その後、Aさんとパートナーは結婚し、妊娠24週から2人で暮らし始めた。妊娠34週0日の妊婦健康診査で、体重70kg。血圧160/100mmHg、安静後の再測定では145/95mmHg。尿蛋白2+、尿糖(-)。下腿の浮腫+。子宮底長29cm。腹部緊満感が時々あると訴えたが、触診で子宮収縮は認めなかった。子宮口1cm開大。胎児推定体重1,600g、羊水量は正常。胎児心拍数基線120bpm、基線細変動10bpm、一過性頻脈あり、一過性徐脈は認めなかった。頭重感と不眠の訴えがある。Hb11.5g/dL、Ht38%。

このときのAさんの状態で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 妊娠中の体重増加は正常である。
2. 胎児発育不全(FGR)である。
3. 胎児機能不全である。
4. 白衣高血圧である。
5. 入院が必要である。

次の文を読み 52、53 の問いに答えよ。

A さん(32 歳、1 回経産婦)。妊娠 39 週 4 日。陣痛発来し、かかりつけの産婦人科病院に入院した。順調に分娩が進行し、体重 3,150 g の女児を経膣分娩した。児娩出直後は異常出血は認めなかった。児娩出の 5 分後に子宮収縮に伴い臍帯を挟鉗したペアンが下がる様子があり、助産師は臍帯を牽引して胎盤を娩出した。胎盤娩出直後から、A さんは苦悶し始め、下腹部痛を訴えた。胎盤娩出直後のバイタルサインは、体温 37.2℃、脈拍 90/分、血圧 120/65 mmHg であった。助産師が内診を行うと、膣内に弾力のある組織が膨隆しており子宮口を同定できなかった。膣口から多量の血液が流出している。

52 A さんに生じた異常を判断するのに重要なのはどれか。

1. 経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉
2. 胎盤剝離面の凝血塊付着の有無
3. 臍帯動脈血 pH 値
4. 子宮底の位置
5. アレルギー歴

53 胎盤娩出から 30 分後、医師による処置が終了して A さんの下腹部痛は消失した。総出血量は 3,800 mL。膣口からの出血は減少したが持続しており、膣内に貯留した血液には凝血が認められない。

この時点で確認する血液検査データで最も重要なのはどれか。

1. 血清間接ビリルビン値
2. 血清ナトリウム値
3. フィブリノゲン値
4. 白血球数
5. 血糖値

次の文を読み 54、55 の問いに答えよ。

A さん(39 歳、会社員)は、妊娠を希望して不妊専門クリニックを受診したところ、夫(44 歳、会社員)が乏精子症であることが分かり顕微授精をすることになった。A さんは「不妊治療費の公費の助成があると聞いたので詳しく知りたい」と質問した。A さん夫婦の合算した年間所得と治療は助成の対象であることが分かった。

54 国が定める「不妊に悩む方への特定支援事業」の説明で正しいのはどれか。

1. 「ご夫婦ともに 43 歳未満でないと助成を受けられません」
2. 「不妊の原因が男性側にあるので助成を受けられません」
3. 「初回の治療では 30 万円まで助成が受けられます」
4. 「助成が受けられる回数は 6 回までです」

55 Aさんは不妊治療を開始して2年目に妊娠した。分娩予定日は10月20日であった。妊娠中期からしばしば腹部緊満感があり、子宮収縮抑制薬の内服を続けていたが、仕事が忙しく思うように休養をとることができなかった。8月23日(妊娠31週5日)に切迫早産のため入院となり点滴静脈内注射を開始したが子宮収縮を抑制できず、9月3日(妊娠33週2日)に緊急帝王切開術で分娩となった。

Aさんが請求できる産前産後休業について正しいのはどれか。

1. 産後休業の起算日は9月3日である。
2. 産前休業は8月23日から適用される。
3. 帝王切開術のため産後休業は2週間長く請求できる。
4. 医師の許可があれば産後5週で復職できる。

